

学生、教職員の皆さんへ

## 「学生中心の大学づくり」を！

### 教員の不祥事

佐賀大学は、統合、法人化を経てこの3年の間、教育研究をはじめ地域社会貢献、国際貢献を通じて、「佐賀の大学」として大きな成果を挙げてきました。学生、教職員の皆さんの研鑽と努力に敬意を表します。一方、この間、セクハラ等の学生に対するハラメント、暴力行為、不正経理の発覚など4件の教員の不祥事が続いています。これらの不祥事は嘗々と積み上げてきた成果を一瞬にして水疱に帰するものです。すべては教育と研究の現場から派生した不祥事であることを考えると、本学の教育研究活動に対する教員の認識不足あるいは認識の遅れがあるのではないかと危惧します。

### 佐賀大学の目的と理念

まず、改めて佐賀大学の目的、理念を想起してください。佐賀大学は、学則第2条と法人規則第1条に述べられた本学の目的に基づいて、佐賀大学憲章を制定し、「佐賀の大学」としての理念を宣言しました。とくに、本学は「学生中心の大学づくり」を理念の第1に掲げ、そのために学生の能力を最大限に伸ばす支援体制を整備するとともに、地域性と国際性を求める多様化の世紀に相応しい教育と研究を工夫し、21世紀を先導する人材を育成することを目的としました。

### 教育研究の現場の再構築

教育研究の現場は学生と教職員、とくに教員、から構成されています。教育とは、人格を形成し、社会の要請に応え、探求の心を育み、進取の精神を養うことです。教育活動は学生に対してなされると同時に教員自らに対しても成されるものです。学生の成長とともに教員は学生以上の成長を期さねばなりません。そうでなければ教員は学生から教師として尊敬されないでしょう。とくに人格の形成は年齢、性別を超えて生涯追究されるべきものです。教育研究の現場は、学生と教員が互いに切磋琢磨して人格の涵養を図れる環境であるべきと考えます。今日の不祥事の最大の原因は、学生の成長に比べ教員の成長の遅れにあると思います。

地方都市の衰退、地域格差の増大、財政的面から佐賀大学を取り巻く状況は厳しいものがありますが、それ以上に佐賀大学は内部から崩壊する危機に直面しているといつて言い過ぎではありません。大学の自治を唱えながら自律できない大学として社会から葬られかねません。佐賀大学の目的、佐賀大学憲章に則って学生と教職員の対話から教育研究の現場を再構築しましょう。